

注意事項

1. 試験問題の数は 75 問で解答時間は正味 1 時間 20 分である。
 2. 解答方法は次のとおりである。
- (1) 各問題には 1 から 4 までの四つの答えがあるので、そのうち質問に適した答えを一つ選び、次の例にならって答案用紙に記入すること。

(例) [問題 101] 助産師免許の申請要件で正しいのはどれか。

1. 助産師国家試験に不合格でも保健師国家試験に合格すればよい。
2. 助産師国家試験に不合格でも看護師国家試験に合格すればよい。
3. 看護師国家試験に合格し助産師国家試験に合格すればよい。
4. 看護師国家試験に不合格でも助産師国家試験に合格すればよい。

正解は「3」であるから答案用紙の ③ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

| | | | | |
|-----|---|---|---|---|
| 101 | ① | ② | ③ | ④ |
| 101 | ① | ② | ● | ④ |

↓

答案用紙②の場合、

| | |
|-----|-----|
| 101 | 101 |
| ① | ① |
| ② | ② |
| ③ | → ● |
| ④ | ④ |

- (2) 1 問に二つ以上解答した場合は誤りとする。

〔問題 1〕 ICM の「助産師のための国際倫理規定」に基づく母乳育児支援はどれか。

1. 文化的多様性に関わらず母乳を勧める。
2. 母乳育児中でも必ず調乳方法を教える。
3. 有害と考えられる調乳手順は禁止する。
4. 助産師が良いと認める方法を強く推奨する。

〔問題 2〕 1994 年のカイロ会議で採択されたリプロダクティブ・ヘルス／ライツの行動計画に基づいているのはどれか。

1. 対象は周産期の女性の健康である。
2. 人工妊娠中絶は女性の選択権である。
3. 様々な性アイデンティティを認める。
4. 人は誰でも希望するときに希望する数の子どもを持つことができる。

〔問題 3〕 思春期女子の身体変化で正しいのはどれか。

1. 初経の発来と体脂肪率とは関係しない。
2. 年間身長増加量は初経後 1 年以内がピークである。
3. 初経のころの子宮は頸部と体部とはほぼ同じ長さである。
4. 骨盤外計測値は 14 歳以降に急激に増加する。

〔問題 4〕 妊娠中の摂取物の影響で正しいのはどれか。

1. アルコール摂取は早産率を上昇させる。
2. コカイン摂取は胎児の奇形発生率に影響しない。
3. たばこの本数が多いほど出生時の児体重が減少する。
4. コーヒー 1 杯／日のカフェイン摂取は胎児死亡率を高める。

〔問題 5〕 卵胞の発育とその機能で正しいのはどれか。

1. LH は卵胞を発育させる。
2. 卵母細胞は思春期に第一成熟分裂が始まる。
3. 排卵直前の成熟卵胞は直径約 20 mm に達する。
4. 排卵されなかった卵胞はグラーフ卵胞となる。

〔問題 6〕 妊婦に禁忌の薬物はどれか。

1. カプトプリル(降圧薬)
2. アミノフィリン(喘息薬)
3. フェニトイン(抗てんかん薬)
4. プレドニゾロン(副腎皮質ステロイド薬)

〔問題 7〕 ダウン症候群で正しいのはどれか。

1. 転座型が最も多い。
2. 出生頻度は約 3,000 出生に 1 人である。
3. 母親の年齢が 40 歳を過ぎると発生頻度は 300 例に 1 例となる。
4. 母親がダウン症候群の転座型保因者の場合、生児がダウン症候群である確率は $1/3$ である。

〔問題 8〕 単純体重減少性無月経で正しいのはどれか。

1. 病識はない。
2. 食行動の異常はない。
3. ゴナドトロピンの分泌は正常である。
4. ゴナドトロピン放出ホルモン(GnRH)の分泌は正常である。

〔問題 9〕 組合せて正しいのはどれか。

1. クロミフェンテスト ————— 卵巣刺激試験
2. hMG 負荷テスト ————— 下垂体刺激試験
3. GnRH 負荷テスト ————— 視床下部刺激試験
4. エストロゲン負荷テスト ————— 視床下部刺激試験

〔問題 10〕 妊娠の維持機構で正しいのはどれか。

1. hCG は脱落膜で産生される。
2. hCG は黄体のプロゲステロン産生を刺激する。
3. エストロゲンが子宮平滑筋の収縮を抑制する。
4. 胎盤でのプロゲステロン産生は胎児からのコレステロール供給に依存する。

〔問題 11〕 胎児の造血機能で正しいのはどれか。

1. 胎児期の造血の中心は腎臓である。
2. 胎児ヘモグロビンは妊娠 34～36 週にはヘモグロビンの約半数を占める。
3. 胎児ヘモグロビンは低酸素状態での酸素の運搬に有利である。
4. 成人ヘモグロビンは妊娠 37 週から産生が始まる。

〔問題 12〕 胎盤の構造と機能で正しいのはどれか。

1. 絨毛間腔の母体血液は胎児血液と混合する。
2. 妊娠 16 週ころから母体 IgG は胎児へ移行する。
3. 妊娠 16 週ころから黄体ホルモンを分泌して妊娠を維持する。
4. hPL(ヒト胎盤性ラクタゲン)を分泌して子宮収縮を抑制する。

〔問題 13〕 妊娠による生殖器の変化で正しいのはどれか。

1. 膣分泌物の pH は非妊時よりも高くなる。
2. 子宮は平滑筋細胞の伸展と肥大で増大する。
3. 妊娠 5 か月ころには内診でピスカチェック徴候が認められる。
4. 子宮峡部は妊娠週数とともに短縮し妊娠末期には約 1 cm となる。

〔問題 14〕 分娩の生理で正しいのはどれか。

1. 骨盤出口部の広さは変化しない。
2. 初産婦では子宮口 3 cm 開大から最大傾斜期になる。
3. 嵌入とは児頭大横径が骨盤入口面より下降することをいう。
4. 産婦が坐位姿勢をとると陣痛発作時の子宮内圧は低下する。

〔問題 15〕 分娩時の子宮頸部の変化で正しいのはどれか。

1. 顆粒球エラスターゼ活性は低下する。
2. 頸管熟化は陣痛開始の 3 時間前ころから起こる。
3. 頸部のコラーゲン量は陣痛発来の前に増加する。
4. 経産婦では外子宮口が全開大するまで子宮腔部は消失しない。

〔問題 16〕 正常な児頭の第 2 回旋で正しいのはどれか。

1. 児の胎向は変化しない。
2. 頤部が胸部に接近する回旋である。
3. 大泉門側は母体の恥骨結合に向かう。
4. 児頭が骨盤底に達する前に終了することが多い。

〔問題 17〕 娩出直前の児の血液ガスの変化で正しいのはどれか。

1. pH は上昇する。
2. 酸素飽和度は低下する。
3. Base Excess は上昇する。
4. 動脈血炭酸ガス分圧は低下する。

〔問題 18〕 褥婦の経過で正しいのはどれか。

1. 産褥 1 日には尿量は減少する。
2. 産褥 2 日にはプロラクチンは上昇する。
3. 産褥 1 週にはインスリン感受性は非妊時と同等になる。
4. 産褥 3 週後半には胎盤付着部の子宮内膜は再生する。

〔問題 19〕 早期新生児期の呼吸で異常なのはどれか。

1. 呻吟を伴わない啼泣時陥没呼吸
2. 出生直後の捻髪音、軋轢音を伴う呼吸音
3. 中心性チアノーゼを伴わない無呼吸
4. 出生直後の周期性呼吸

〔問題 20〕 乳児の感覚機能で正しいのはどれか。

1. 平衡感覚は生後に出現する。
2. 出生直後の視力は 0.3 程度である。
3. 注視できるようになるのは生後 5、6 か月からである。
4. 音の方向が分かるようになるのは生後 5、6 か月からである。

〔問題 21〕 妊娠高血圧腎症の定義に含まれるのはどれか。

1. 浮腫を伴う。
2. 蛋白尿を伴う。
3. 高血圧は妊娠 24 週以降に発症する。
4. 高血圧は分娩後 8 週以内に正常化する。

〔問題 22〕 子宮外妊娠で正しいのはどれか。

1. 尿中 hCG が妊娠週数に比して高値である。
2. 超音波断層法で腹腔内の出血像を認める。
3. 最も頻度の高いのは卵管峡部の妊娠である。
4. 卵管破裂の典型的症状は大量の外出血である。

〔問題 23〕 正しいのはどれか。

1. 癒着胎盤は初産婦に多い。
2. 横位は微弱陣痛になりやすい。
3. 臍帯巻絡は胎位胎勢に影響しない。
4. 狭骨盤は臍帯下垂を引き起こしやすい。

〔問題 24〕 羊水塞栓症の危険因子となるのはどれか。

1. 初産婦
2. 高血圧
3. 過強陣痛
4. 弛緩出血

〔問題 25〕 産褥血栓性静脈炎で正しいのはどれか。

1. 有痛性白股腫は表在性である。
2. 深在性よりも表在性の方が多い。
3. 我が国の発症頻度は2%である。
4. 産褥1日以内に発症することが多い。

〔問題 26〕 28歳の初産婦。産褥2日。本人の希望で昼間のみ母子同室である。夜間、乳房が腫脹して乳頭と乳輪部とに浮腫が出現した。体温37.0℃。硬結や乳頭亀裂はない。

最も考えられるのはどれか。

1. 乳房うっ積
2. 急性化膿性乳腺炎
3. 乳管開口部の未開口
4. うっ滞性乳腺炎(うつ乳)

〔問題 27〕 産後うつ病で適切なのはどれか。

1. 日本での発症頻度は欧米よりも高い。
2. 産後6か月ころに発症のピークがある。
3. マタニティブルーは産後うつ病発症の危険因子である。
4. エジンバラ産後うつ病自己調査票を用いて診断ができる。

〔問題 28〕 正常な新生児にみられない徴候はどれか。

1. 出生直後の鼻翼呼吸
2. 生後8時間での吐物への血液混入
3. 生後5日の児の眼球の黄染
4. 自転車こぎ様運動

〔問題 29〕 正しいのはどれか。

1. Rh(D)血液型不適合による溶血は胎児期から起こる。
2. 早発黄疸は48時間までに出現した肉眼的黄疸をいう。
3. ABO血液型不適合による溶血性黄疸は第1子には発症しない。
4. アルブミンと結合した間接ビリルビンは血液脳関門を通過しやすい。

〔問題 30〕 母体が水痘を発症し3日後に正期産児を分娩した。

正しいのはどれか。

1. 児は水痘を発症しない。
2. 胎児期に水痘の経胎盤感染は起きない。
3. 児が発症した場合の死亡率は約5%である。
4. 児に水痘抗体価の高いグロブリンを投与する。

〔問題 31〕 壊死性腸炎の危険因子でないのはどれか。

1. 早産児
2. 敗血症
3. 新生児仮死
4. ビフィズス菌

〔問題 32〕 妊婦が感染すると児に聴力障害を起こす可能性があるのはどれか。

1. 麻疹
2. 風疹
3. 伝染性紅斑
4. 流行性耳下腺炎

〔問題 33〕 パルスドプラー法で計測された胎児血流波形の評価で、胎児の状態が正常であることを示唆する所見はどれか。

1. 臍帯動脈の resistance index の上昇
2. 臍帯動脈の拡張末期血流の維持
3. 臍帯動脈の逆流
4. 中大脳動脈の resistance index の低下

〔問題 34〕 常位胎盤早期剥離で正しいのはどれか。

1. 発症頻度は全妊娠の 3% である。
2. 板状硬は前壁付着よりも後壁付着で起こりやすい。
3. 子宮筋層内に血液が浸潤し子宮胎盤溢血の状態となる。
4. 常位胎盤早期剥離の既往歴は危険因子でない。

〔問題 35〕 感染によるサイトカイン産生が引き起こす可能性があるのはどれか。

1. 早産
2. 巨大児
3. 胎児奇形
4. 前置胎盤

〔問題 36〕 助産師が行う治療的コミュニケーションで適切でないのはどれか。

1. 助産師が関わる目的を伝える。
2. クライアントのニーズを明らかにすることに焦点を当てる。
3. 言語的コミュニケーションのみに注意すればよい。
4. 助産師の価値基準にとらわれず傾聴する。

〔問題 37〕 50歳の女性。産婦人科外来に「肩こりが強く疲れやすい。イライラしたり憂うつになり、何もやる気が起こらない。この3か月、夜も眠れない」と電話があった。

相手の話を肯定的に受け止めながら聞いた後、最初の対応で適切なのはどれか。

1. 昼寝を勧める。
2. 気分転換を図るよう勧める。
3. ボランティアなどの社会活動を勧める。
4. 更年期障害の専門外来受診を勧める。

〔問題 38〕 我が国の家族計画の動向で正しいのはどれか。

1. 大正時代、女性の健康の立場から産児制限が論じられた。
2. 第2次世界大戦前、コンドームの使用が盛んに指導された。
3. 第2次世界大戦後、未成年者も不妊手術を受けられるようになった。
4. 平成以降、既婚女性の経口避妊薬の使用は急激に増加した。

〔問題 39〕 産後3か月で母乳育児中の女性が経口避妊薬による避妊を希望している。

この女性に提供する情報で正しいのはどれか。

1. 授乳中は避妊の必要はない。
2. 避妊率はコンドームの方が高い。
3. 経口避妊薬は母乳中に移行する。
4. 利用可能なのは産後6か月以降である。

〔問題 40〕 34歳の初産婦。妊娠39週2日。第1頭位。推定児体重2,890g。1時間前に子宮口全開大、Station +2となった。現在、小泉門が4時に触れる。

この時点で産婦に勧める体位で適切なのはどれか。

1. 仰臥位
2. 右側臥位
3. 蹲踞位
4. 四つんばい

〔問題 41〕 妊娠15週の健康診査の所見で正常から逸脱しているのはどれか。

1. 体重が非妊時よりも7%減少している。
2. 顔面に左右対称の色素沈着がある。
3. Hb 11~12 g/dl、Ht 33~36%である。
4. 児頭大横径(BPD)が31 mmである。

〔問題 42〕 妊娠中の運動で適切なのはどれか。

1. 妊娠後期以後はあおむけになる運動を勧める。
2. 1回の運動時間は90分以内で週2、3回とする。
3. 子宮収縮の日内変動を考慮し午後4時から6時が望ましい。
4. 連続運動は自覚的運動強度「やや楽である」以下が望ましい。

〔問題 43〕 19歳の初妊婦。妊娠28週で体重が10kg増加した。血圧136/80 mmHg。尿蛋白(-)である。昨夕の食事はインスタントラーメンとケーキだったと言う。

セルフケア能力を高める支援で適切なのはどれか。

1. 生活指導のため入院を勧める。
2. 妊婦体操のパンフレットを渡す。
3. 妊婦の食習慣から献立プランをともに考える。
4. 栄養士が立てた妊婦用献立プランを渡す。

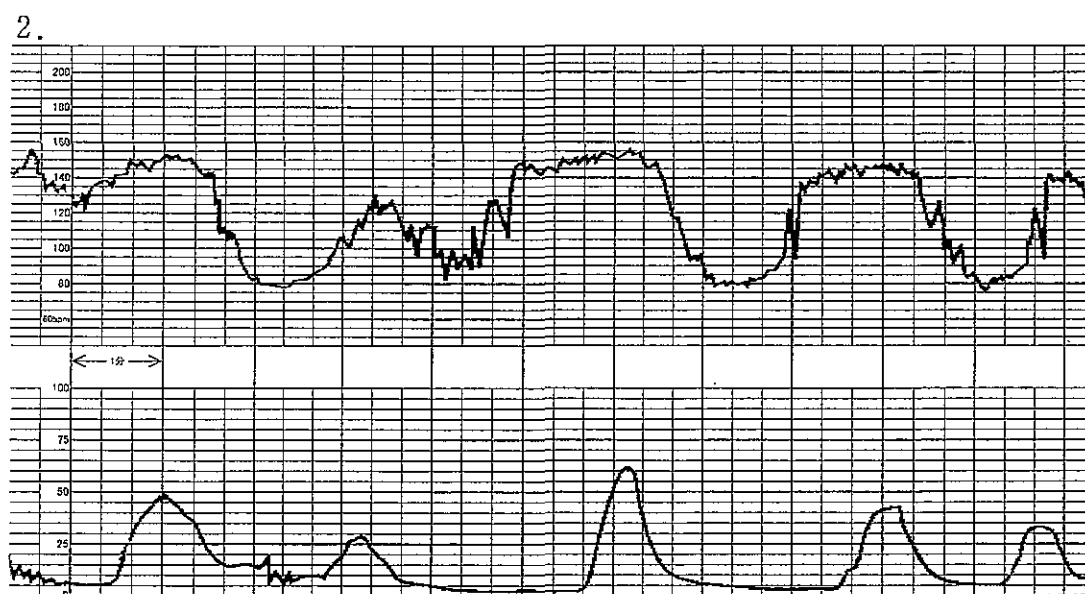
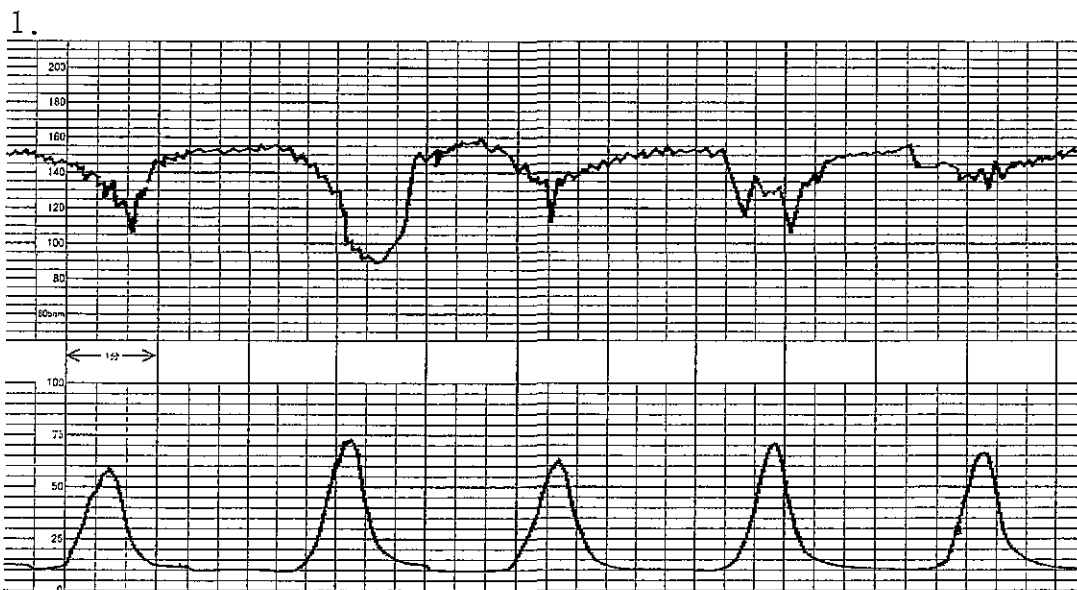
〔問題 44〕 双胎妊婦への説明で適切なのはどれか。

1. 「二絨毛膜双胎の場合は一卵性双胎です」
2. 「妊娠 22 週ころから管理入院が必要になります」
3. 「切迫早産になりやすくなります」
4. 「分娩時は過強陣痛を起こしやすくなります」

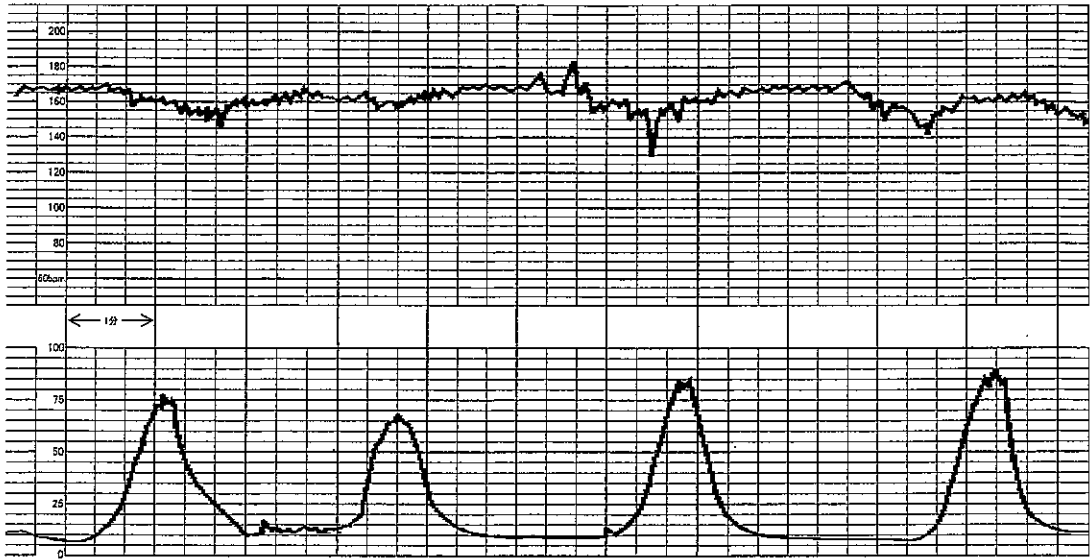
〔問題 45〕 分娩進行のアセスメントで正しいのはどれか。

1. 腹圧は随意性なので児娩出までコントロールできる。
2. 児頭と恥骨とが同じ高さだったのでザイツ(±)である。
3. 胎児先進部 Station +3 を骨盤出口部に達したと判断した。
4. 分娩監視装置の陣痛曲線の振幅が小さいので微弱陣痛と判断した。

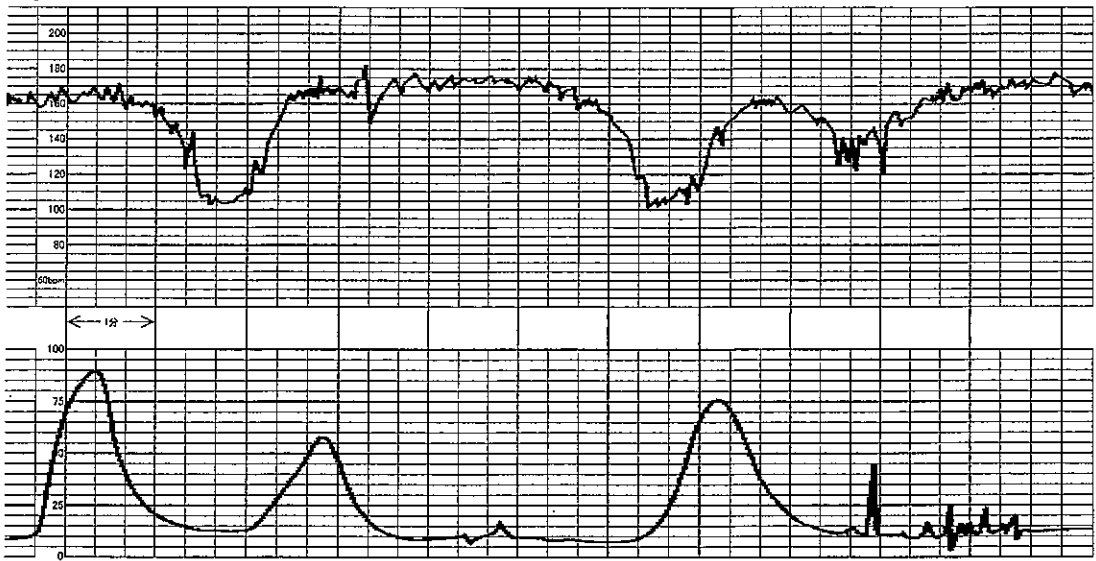
〔問題 46〕 non-reassuring fetal status を疑う胎児心拍陣痛図はどれか。



3.



4.



〔問題 47〕 30歳の初産婦。陣痛発来後6時間が経過し自然破水した。子宮口開大3cm、頭位で、Station -1、陣痛発作40秒、陣痛間欠4分である。陣痛発作時は苦痛表情を認め、腰部に自分の手を当てている。

産婦の援助で適切なのはどれか。

1. 入浴を勧める。
2. 産痛緩和の姿勢は助産師の考えを勧める。
3. 不安を与えないよう分娩進行の説明は控える。
4. 産痛部位のマッサージを行い反応を確認する。

〔問題 48〕 30歳の初産婦。妊娠39週5日で陣痛発来し入院した。夫が付き添い、陣痛間欠5分、子宮口4cm開大まで進行した時点で、産婦の実母が分娩立ち会いのため来院した。バースプランには「夫と2人で赤ちゃんを迎えたい」と記載がある。

助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 実母の意向を尊重し立ち会ってもらおう。
2. 産婦と夫に実母の意向を伝え再検討してもらおう。
3. バースプランに反するので実母に立ち会えないと伝える。
4. 産後の実母との関係を考慮し産婦と夫に実母の立ち会いを勧める。

〔問題 49〕 児の娩出後15分。子宮底が軟らかく胎盤剥離徴候がみられない。

最初に行うのはどれか。

1. クレーデ胎盤圧出法
2. 膀胱充満の確認
3. 臍帯の強い牽引
4. 子宮底の輪状マッサージ

〔問題 50〕 正常新生児への出生直後の対応で適切なのはどれか。

1. 臍帯を触って脈拍数を測定する。
2. 胸壁をタッピングして肺水の排出を促進する。
3. 頸部を前屈させ気道確保する。
4. 沐浴して保温する。

〔問題 51〕 帝王切開の既往がある妊婦で経膈分娩が可能な条件はどれか。

1. 帝王切開の既往が2回
2. 前回の帝王切開の適応が狭骨盤
3. 前回の帝王切開が古典的帝王切開
4. 前回の帝王切開が下節横切開

〔問題 52〕 35歳の経産婦。39週5日。子宮口全開大前からいきんでいた。分娩室へ入室後、約20分で3,480gの児を経膈分娩した。その直後から鮮紅色の出血が始まり、胎盤は5分後に自然娩出したが出血量は450mlになった。子宮底臍下3指、硬度良好だが内診しようとするとう出血が増加する。

可能性が高いのはどれか。

1. 胎盤遺残
2. 弛緩出血
3. 頸管裂傷
4. 子宮破裂

〔問題 53〕 32歳の初産婦。妊娠38週4日。午前5時に破水と同時に陣痛発来し、午前6時に入院した。第1頭位、胎児心拍数は144 bpm、陣痛間欠6分、陣痛発作40秒。身長150 cm、体重60 kg。非妊時より10 kg増加。子宮底長30 cm、腹囲95 cm。尖腹。内診所見は子宮口4 cm開大、展退度60%、Station -1、子宮口の硬さは軟で位置は前方であった。

産婦に推奨する内容で適切なのはどれか。

1. 微弱陣痛のため臥位で過ごす。
2. CPDの可能性が高いため禁食にする。
3. 早期破水のため骨盤高位でベッド上で過ごす。
4. さらに児頭の骨盤内嵌入を促すため散歩をする。

〔問題 54〕 吸引分娩で正しいのはどれか。

1. Station +2での施行は禁忌である。
2. 分娩第2期の分娩停止は適応となる。
3. 吸引圧は10~20 cmHgの陰圧で牽引する。
4. 吸引カップはできる限り小さい方が効果的である。

〔問題 55〕 双手圧迫法で正しいのはどれか。

- a. 術者の片方の手拳を膣内に入れ後膣円蓋に当てる。
- b. 腹壁から子宮体部に当てた手と膣内に入れた手とで子宮を圧迫する。
- c. 止血するまで20分以上圧迫する。
- d. 止血後、子宮腔内の残留胎盤や卵膜片を調べる。

1. a、b 2. a、d 3. b、c 4. c、d

〔問題 56〕 褥婦のケアで正しいのはどれか。

1. 産褥 1 日目は授乳回数を制限し疲労回復を図る。
2. 産褥 3 日まで水分摂取を制限する。
3. 乳汁分泌過多の場合は授乳後徹底して搾乳する。
4. ストレスでオキシトシン分泌を妨げないよう環境を整える。

〔問題 57〕 産後の受胎調節法と使用可能な時期との組合せで正しいのはどれか。

1. IUD ————— 産後 6 ～ 8 週以降
2. コンドーム ———— 産後 3 週以降
3. 経口避妊薬 ———— 月経が 3、4 回規則正しく再来後
4. 基礎体温法 ———— 月経再来後かつ授乳中止後

〔問題 58〕 産後 1 日、母指頭大の脱肛による疼痛を訴える褥婦へのケアで適切なのはどれか。

- a. 坐位を避け臥床を勧める。
- b. 疼痛が強い場合は冷罨法を行う。
- c. 自分で還納できるよう指導する。
- d. 還納後、肛門の引き締め運動を指導する。

1. a、b
2. a、d
3. b、c
4. c、d

〔問題 59〕 カルバマゼピン内服中のでんかん合併妊婦に対する説明で正しいのはどれか。

1. 「妊娠によって発作が起こりにくくなります」
2. 「児の奇形発生率は高くなりません」
3. 「新生児の出血傾向を予防するためにビタミン C が投与されます」
4. 「母乳はあげられます」

〔問題 60〕 甲状腺疾患合併妊娠について正しいのはどれか。

1. バセドウ病は妊娠中期以降に改善傾向を示す。
2. 橋本病は分娩を契機に甲状腺クリーゼ発生のリスクが高い。
3. プロピルチオウラシル内服中は授乳を中止する。
4. 甲状腺ホルモン製剤内服中は授乳を中止する。

〔問題 61〕 生後6時間での正期産児の診察で異常所見はどれか。

1. 仰臥位では手足を屈曲させている。
2. 肝臓が右肋骨弓下に2～3cm触知できる。
3. 立位に抱き上げて懸垂させると下肢を交叉させる。
4. 上体を45度ぐらいに起こして頭を前後させると児が開眼する。

〔問題 62〕 破水後36時間で母体が38.0℃に発熱したため誘発分娩で出生した。

妊娠39週2日、出生時体重2,900g。アプガースコア1分後8点、5分後9点であった。生後4時間に児は体温36.0℃で元気がなくなり、皮膚に網状チアノーゼを認めた。

児の状態のアセスメントで重要な母体の情報はどれか。

1. 自然流産歴
2. 心疾患の家族歴の有無
3. 妊娠35週時の膣培養の結果
4. 成人T細胞白血病ウイルスに対する抗体価

〔問題 63〕 乳幼児の発育または発達の評価で適切なのはどれか。

1. カウプ指数が 20 以上をやせと評価する。
2. 低身長は被虐待児症候群には起こらない。
3. 3 歳前後からの肥満は成人肥満に移行する確率は低い。
4. 実測体重が標準体重の 15 % 以上重い場合を幼児期の肥満と評価する。

〔問題 64〕 4 か月児健康診査で異常なのはどれか。

1. 寝返りをうたない。
2. 大きな物音に反応する。
3. 左右方向の追視ができない。
4. 顔の前のおもちゃに手を出して持とうとしない。

〔問題 65〕 授乳期のカルシウム代謝で正しいのはどれか。

1. 血中カルシウム濃度は妊娠中よりも増加する。
2. 骨量は妊娠中よりも増加する。
3. 乳腺でのカルシトニン産生が増加する。
4. カルシウム所要量は非妊時よりも 2,000 mg/日増加する。

〔問題 66〕 都道府県が実施主体の母子保健事業はどれか。

1. 母子保健相談指導事業
2. 健全母性育成事業
3. 産後ケア事業
4. 未熟児養育医療

〔問題 67〕 平成 16 年(2004 年)の我が国の周産期死亡で正しいのはどれか。

1. 母親の年齢が 40 歳代の周産期死亡率は 20 歳代の 2 倍以上である。
2. 早期新生児死亡数は妊娠満 22 週以後の死産数よりも多い。
3. 最も多い死亡原因は先天奇形および染色体異常である。
4. 周産期死亡率は 7.0 である。

〔問題 68〕 健やか親子 21 の課題 2「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への援助」の指標はどれか。

1. 妊産婦死亡率
2. 妊娠中の飲酒率
3. 助産師外来の設置率
4. 不妊治療施設数

〔問題 69〕 法律で規定されている新生児訪問指導で正しいのはどれか。

1. 地域保健法に規定されている。
2. 褥婦の健康診査も行う。
3. 市町村が主体となつて行う。
4. 助産師の独占業務である。

〔問題 70〕 病院勤務の助産師がその病院で出産した母親たちから「育児の不安や悩みを相談し合えるような母親グループを作りたい」と相談された。

グループを支援していくための助産師の役割で最も適切なのはどれか。

1. 助産師がグループリーダーを務める。
2. 活動目標を助産師が設定する。
3. 毎回参加者の個別相談を受ける。
4. 協力関係機関を紹介する。

〔問題 71〕 妊娠・分娩に関わる医療保険の療養給付の対象はどれか。

1. 子宮外妊娠後の体外受精
2. 悪性腫瘍患者の避妊手術
3. 心疾患患者の人工妊娠中絶
4. 骨盤位の帝王切開術

〔問題 72〕 助産所に関する医療法の規定で正しいのはどれか。

1. 開設後 20 日以内に届け出る。
2. 開設届は市町村長に提出する。
3. 開設許可後の閉鎖命令は厚生労働大臣が行う。
4. 臨時応急の場合は同時に 10 人以上の妊産褥婦が入所できる。

〔問題 73〕 助産所の管理・運営で正しいのはどれか。

1. 初診は嘱託医による妊婦健康診査が義務付けられている。
2. 助産所の管理者は助産師に限定される。
3. 衛生上の基準違反は罰金科料される。
4. 事故に備えて損害保険に加入することが義務付けられている。

〔問題 74〕 分娩介助したA助産師が記載した出生証明書を、B助産師が母親に渡した際、出生日に誤りがあると指摘された。

病棟リスクマネジメントの観点から適切なのはどれか。

1. その場でB助産師が母親の言う出生日に書き直す。
2. 医療事故ではないので報告しない。
3. A助産師とB助産師で解決する。
4. 再発防止の具体策を病棟で話し合うことを提案する。

〔問題 75〕 予定日超過で陣痛促進薬の点滴静脈内注射中、胎児心拍が 60 bpm に低下した。直ちに酸素投与し 1 分 20 秒で心音が回復したので、助産師 1 人でそのまま経過観察した。1 時間後、遅発一過性徐脈が出現したため陣痛促進薬を一時中止し医師に報告した。児は吸引分娩でアプガースコアは 1 分後 3 点、5 分後は 9 点であった。

助産師の「注意義務違反」に当たる可能性のある行為はどれか。

1. 陣痛促進薬投与中の産婦を助産師 1 人で経過観察していた。
2. 胎児心拍が 60 bpm に低下したことを医師に報告しなかった。
3. 医師の指示なく酸素投与を行った。
4. 医師に報告する前に陣痛促進薬の投与を中止した。